

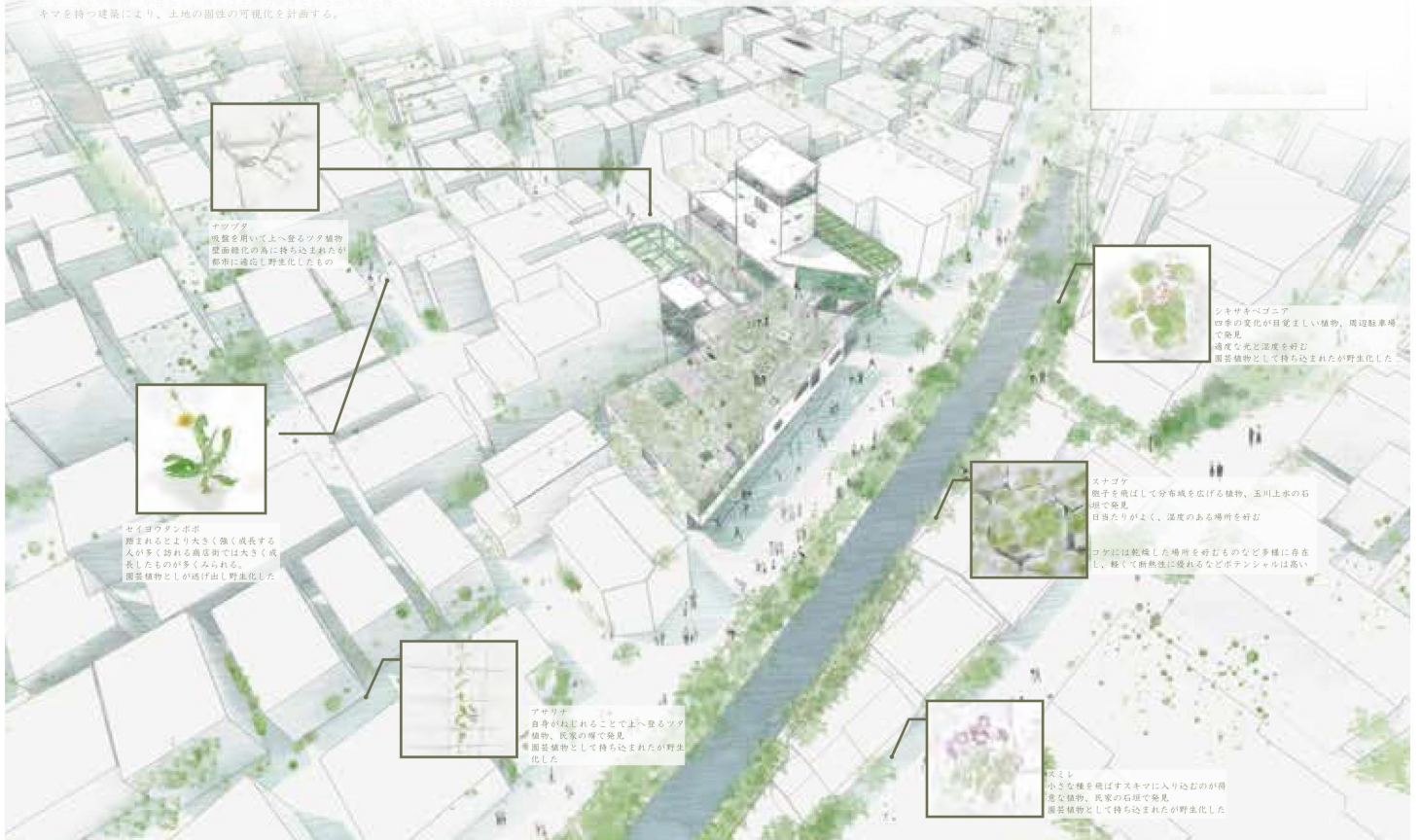


早田直
小泉研究室

スキマ植物と暮らす ～元ある自然から現れる都市の固有性を引き出す建築～

敷地：渋谷区笹塚玉川上水沿い
用途：シェアハウス+複合

スキマを持つ建築により、土地の個性の可視化を計画する。



コンセプト

現在の建築都市には、人が計画した自然と人工物が広がり、その景色はどこでも作り出せるものとなっている。

しかし、都市の“スキマ”には土地の歴史～四季～人の活動まで含めた環境に居場所を見つけ暮らす“スキマ植物”が存在し、彼らは土地の個性を引き出す力を持っている。彼らを引き込むスキマを持つ建築により、土地の個性の可視化を計画する。

土地の個性（歴史、人の活動、自然環境）⇒ スキマ植物が体現

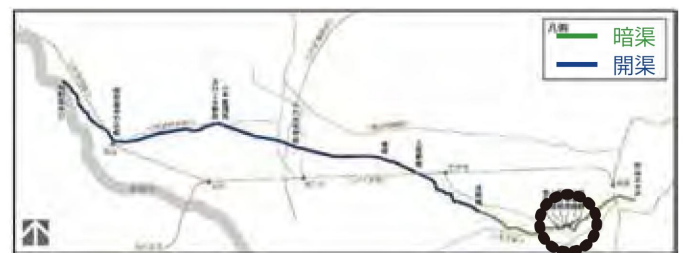


5つの設計段階

建築空間化

敷地

玉川上水は下高井戸より下流で暗渠化されているが笹塚周辺では唯一暗渠化を免れている。川沿いには人の管理から離れた隙間植物たちが多く確認できた。



①人の導線→ボリューム配置

周辺敷地との関係



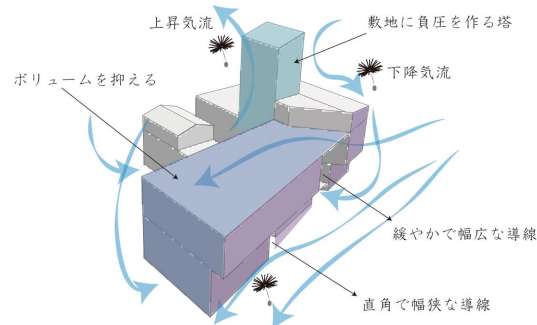
現状
木チンペルトにかかる地域駅前から再開発が進行中



計画
敷地の利便性から東西を結ぶ

②風 解析を用いてボリュームを決定

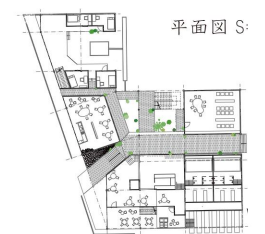
種を引き込む形状



生まれる副メリット
密集住宅地にフレッシュな空気を届ける

③植物 植物が生える場所

引き込み方法と能





3F 半屋外空間

屋外から土を伝い床材の割れ目にこぼれる
建物内に地域のスキマ植物たちが入り空間が変化する



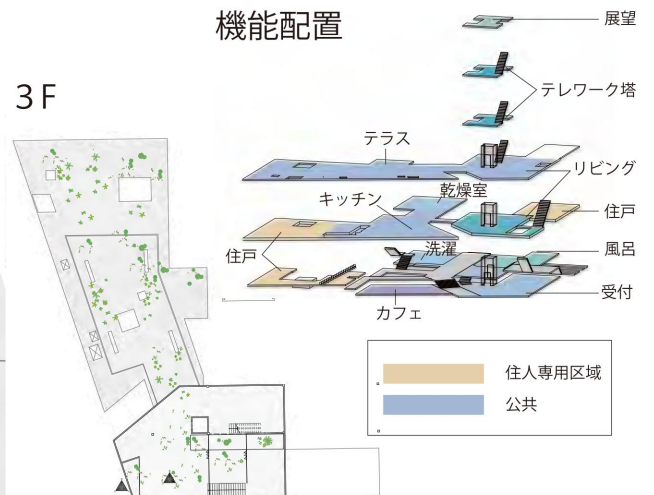
2F 半屋外空間

秋になると植物たちのささやかな紅葉を感じられる
人によって見つけれられる植物は違うかもしれない

1F 平面図



機能配置



3F

2F



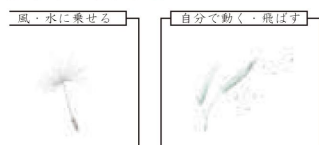
6F

5F

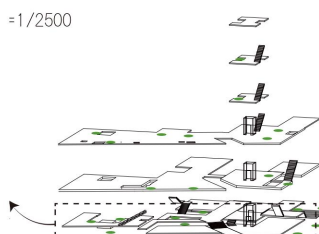
4F

と種類の決定

能力から決定



≒1/2500



④光 解析を用いた植物が暮らせる環境作り1

断面図 S=1/500

光の強弱
強い光の元で暮らすもの
薄暗い陰で暮らすもの

素材1
半透明にすることで光を
与える

素材2 メリット
植物を透過した淡い光が
退屈なランドリーを彩る

冬には光が当たらないよ
うに屋根の高さを決定

⑤雨・散水導線 植物が暮らせる環境作り2

風呂の蒸気のできる結露
水を栄養に変える

ツタパウンランの反射性を活かす

空気清浄化能力を活かす

